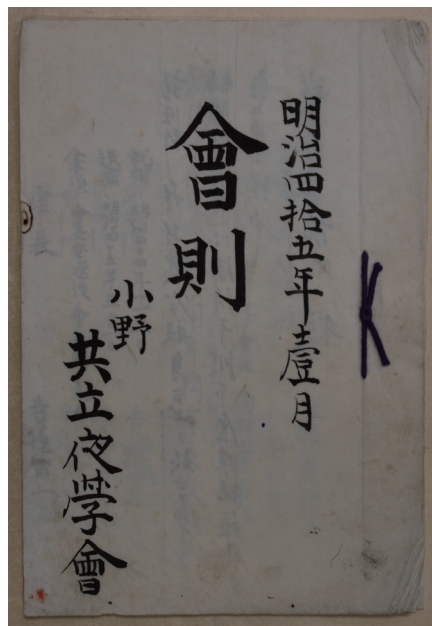


学校教育の普及（夜学会）



* 小野家文書409-1「小野共立夜学会会則」



* 小野家文書409-6「自学之友 No.1」

解説

「小野共立夜学会」は明治時代末に萩市田万川で開催された夜学会です。これは満16歳以下の高等小学校の生徒ないし卒業生が先生役となり、向学心のある地元の尋常小学校の児童を教えながら自らも研鑽するという独特なものでした。教室は小野家に置かれていたため、「小野室」と呼ばれました。

学習発表会や臨時考査も実施され、また担当児童の指導に当たっては成績について小学校と連絡を取ることもしました。夜学会は自主運営され、「会則」の中には「うそをいふな」「友を呼ぶ時はさんを付けよ」など集団生活の心得も記されています（写真左側）。

右側の写真は1912（明治45）年2月発行の小野共立夜学会の会誌「自学之友」で、雑誌創刊が流行していた当時、中央の雑誌に影響されながら自分たちの手で作ったものです。手書きの誌面からは知識習得への意欲と熱意が伝わってきます。

夜学会は主に青年会の自発的学習活動として様々な形態で行われていましたが、次第に実業補習学校に改変されていきました。

* 県内の夜学会に関する文書は、柳原家文書や来栖家文書にも残されています。